公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アソベル磐田			
○保護者評価実施期間	令和8年　7月　10日	～	令和8年　8月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	27名	（回答者数）	18名
○従業者評価実施期間	令和8年　7月　10日	～	令和8年　8月　10日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4名	（回答者数）	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　8月　10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数の中で、個々の持つ課題にアプローチしやすい環境にあると感じる。	日々の支援の前に職員間での打ち合わせを通し、課題や注意事項・活動の意図などを共有し実践できるよう取組んでいる。またギターなどの演奏も取り入れ、常に音楽を身近に感じながらリズム感は勿論、ADL・数字などにも触れやすくしている。	個々の当日の取り組む活動内容を可視化していきたい。
2	毎日の活動の中で、特に身体を動かすことで筋力・体幹の向上を目指せるよう活動を組み立てている。	活動に公園あそびやゲーム遊び等、子ども達の好きなものを取り入れる事で楽しんで取り組めるようにしている。	個々の身体的課題等にも日々の動作の積み重ねから修正、練習になるように気を配っていきたい。
3	長期休みには、普段取り組めない事に挑戦していく。	外出などで様々な経験を積めるよう、お出掛け先を検討、計画、実施している。	各自、自身の考えが発信できるよう、外出時にはできる限り感想を記入するようにしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特別支援学校に通学する児童と地域の小中学校の通常・支援級に通学する児童が利用する中で、個々の課題の違いが大きく、支援内容をどう組み合わせていくかを日々模索している。	個別にサポートが必要な児童も多いが職員数は規定を満たしてはいる故、支援方法に更なる工夫が必要である。	個々の課題に合わせたプログラム作成を行った上で、活動の分離や集団、小集団など様々な工夫をしていきたい。
2			
3			